

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

タイトル：「新発見の契丹文字資料」（公開研究会、兼「契丹語・契丹文字研究の新展開」平成23年度第2回研究会）

日時：平成23年10月1日（土曜日）午後10:30時より午後18:30時

場所：東京外語大学アジア・アフリカ研究所 三階大会議室（303）

報告者名（所属）：

1) 孫伯君（中国社会科学院民族学与人類学研究所）

「ロシア科学アカデミー東洋文献研究所所蔵契丹大字冊子本について」

（聖彼得堡俄罗斯科学院东方文献研究所发现一部契丹大字文献）

これまでに出土した契丹大字の資料について紹介した。墓誌としてはこれまでに11件が確認されている： 1. 耶律延寧墓誌, 2. 北大王墓誌, 3. 故太師銘石記, 4. 耶律昌允墓誌, 5. 蕭孝忠墓誌, 6. 蕭袍魯墓誌, 7. 永寧郡公主墓誌, 8. 耶律祺墓誌, 9. 耶律習涅墓誌, 10. 多羅里本郎君墓誌, 11. 応曆碑。

さらに、8件の碑刻資料が知られている： 1. 静安寺碑, 2. 遼太祖墓碑, 3. 遼上京残石一, 4. 遼上京残石二, 5. モンゴル国ヘンティ県契丹大字刻石, 6. モンゴル国アラシャーン・ハダ岩壁銘文, 7. モンゴル国エルデネ・オール岩壁銘文, 8. モンゴル国ドルノゴビ県契丹大字碑文。

その他に、石刻以外のものとして契丹大字が記された銅鏡、貨幣なども出土している。

2) 呉英喆（内モンゴル大学、AA研外国人研究員）

「新発見の契丹文字資料について」

1922年6月、契丹小字公開資料が初めて発見されて以降、今まで34件の契丹小字の墓誌、墓誌碑及び石碑の資料が発表されている。一方契丹大字の資料は発見されて以降、今まで14件の契丹大字の墓誌及び石碑が発表されている。もちろん、そのほか、コイン、岩、鏡、杯、塔の壁、細長い木など上の契丹大字、小字の資料も発見されてきた。1990年代以降は、毎年一、二件の契丹文字の新資料が発見されて、契丹文字研究者たちに豊富な資料を提供している。本発表では今まで発見された資料のうち、未公開の資料を数点紹介したい。

1. 契丹小字「蕭胡睹董審密墓誌銘」：この墓誌の発見された時期及び場所は不明で、現在内モンゴル巴林左旗の「契丹博物館」に所蔵されている。あわせて39行、1480文字が残る。墓主は、すでに知られている「蕭図古辞」の墓主の甥、「蕭敵魯」の墓主の叔父である。墓主は重熙十年（1041）六月十三日に生まれ、大安七年（1091）二月十六日に落馬

により死亡。この墓誌に蕭何、張良、楊雄、王通らの歴史人物名が記載されている。

2. 契丹小字「耶律普蘇里太傅墓誌銘」：この墓誌の発見された時期・場所及び現在保存されている場所は不明である。拓本によると、原石が破損している。この墓誌の蓋に2行、誌石に25行、約800文字が刻まれている。墓主は清寧四年（1058）十一月十日に生まれ、乾統四年（1105）六月二日に死亡。墓誌銘は翌年の二月二十二日に作られた。これは耶律氏の孟父房の歴史の研究にとって貴重な資料と考えられる。

3. 契丹小字「耶律玦墓誌銘」：この文物の発見された時期及び場所は不明で、原石は内モンゴル「新州博物館」に所蔵されている。あわせて46行、およそ2000文字が刻まれている。墓主は『遼史』の巻91に見られる耶律玦と考えられ、咸雍六年（1070）十一月二十九日の夜、死亡。この墓誌銘に官職名が多く出現している。さらに墓主の経歴を年代順に記録しているのが興味深い。この墓誌の蓋には文字や模様などは見られなかった。

4. 契丹小字「耶律太師墓誌銘」：この墓誌は2009年6月末ごろ収集されたが、発見された時期と場所は不明である。現在、内モンゴル大学モンゴル学学院に所蔵されている。原石が破損しているが、内容は大体残っており、26行、1040文字が刻まれている。この墓誌の第18行に寿昌七年（1101）一月二十五日の日付があり、これは耶律太師の死亡日であると考えられる。墓主は「耶律詳穩墓誌」の墓主の息子である。

5. 契丹小字「故侍中墓誌銘」：この墓誌は2009年9月に収集された。発見された時期と場所は不明である。現在内モンゴル大学モンゴル学学院に所蔵されている。原石面の状態が悪く、拓本の作成は困難である。全部33行、約1700文字が刻まれている。この墓誌は大安七年（1091）一月十日に作られた。これは蓋だけで、誌石の行方が不明である。蓋の上側に「故侍中墓誌銘」という漢字があり、裏面に契丹小字が見られる。

6. 契丹小字「耶律斡特剌郎君墓誌銘」：この墓誌は2009年10月に収集された。発見された時期と場所は不明である。現在内モンゴル大学モンゴル学学院に所蔵されている。墓誌の一角が破損しているが、文字の内容はすべて揃っている。全部22行、約1000文字が書かれている。墓主は咸雍九年（1073）12月18日に生まれ、寿昌五年（1099）四月十五日に死亡したと考えられる。墓主は耶律休哥の親戚であることがはっきりしている。

7. 契丹大字「某太師の墓誌銘」：この墓誌の発見された時期、場所及び現在の保存地などは不明である。原石の状態がよく、墓誌の内容はすべて揃っている。全部25行、約800文字が刻まれている。この墓誌の契丹大字の字形は明瞭である。墓誌のタイトルから見ると、これは某太師の墓誌と考えられる。これは誌石が残るだけで、この蓋の行方は不明である。

3) 松川節 (大谷大学文学部)

「モンゴル国で新たに発現した契丹大字碑文について」

2010年8月、日本モンゴル共同「ピチエース III」学術調査隊は、モンゴル国南部にあるドルノゴビ県において、今まで知られていなかった碑文の調査を行い、そこに記されている文字が契丹大字であることを初めて確認した。碑文は、ドルノゴビ県エルデネ郡のブレーニィ・オボーに位置していた。オボーはモンゴル語で「石積塚」の意である。初期発現地を冠して、本碑文を「ブレーニィ・オボー契丹大字碑文」と呼ぶ。

碑文には漢字とよく似た文字が、7行、150字程度刻まれており、碑面は磨かれておらず、凸凹の天然石にそのまま文字が刻まれているため、解読は極めて困難であったが、最初の行の冒頭部分の9文字を解読した結果、それは契丹大字であり、「清寧四年八月一日」という年月日が記されていることが新たに判明した。

清寧四年は西暦1058年に当たり、契丹が北中国からモンゴル高原にわたる広大な領域を支配していた遼(916～1125年)の第8代皇帝・道宗(在位:1055～1101年)の即位後まもない年代である。

なお、本碑文は2011年5月にウランバートルの国立博物館に移管され、現在、博物館内に展示されている。

4) 武内康則(日本学術振興会・大谷大学)

「モンゴル国ドルノゴビ県契丹大字碑文について」

本発表では、2010年にモンゴル国ドルノゴビ県で新たに確認された契丹大字碑文の解読結果を報告した。

これまでに発見された契丹文字資の多くは墓誌であり、墓誌以外の碑文資料としては『郎君行記』や『静安寺碑』など少数のものが知られるのみである。さらに、契丹小字墓誌は約四十点出土している一方で、契丹大字墓誌は十数点しか出土しておらず、新たな契丹大字資料の出土が期待されている。このような契丹文字資料の出土状況から見て、この資料は非常に貴重なものであると言える。

碑文は、地面から露出している部分の大きさが縦179cm、横58cmほどであり、文字が記録された部分は縦130cm、横32cmほどである。1行当たり契丹大字が30-40文字7行にわたって刻されている。1文字の大きさは3-4cmである。全体的に文字は非常に読みにくく、字形を特定できない部分も多い。

研究によって碑文の右から1行目には日付が記されていることが明らかになった。これらの日付の表記に用いられる文字は他の契丹大字資料でも出現する。これらの文字はすでに解読され研究者の同意が得られている。さらに、2, 3の称号名や人名を記したと考えら

れる字形が確認することができた。

今後の解説の進展には、他の契丹大字資料との比較研究が重要となるであろう。

5) 孫伯君 (中国社会科学院民族学与人類学研究所)

「契丹文字の符号化について」

(契丹小字国際編碼提案)

中国による契丹小字および女真文字の ISO 符号化提案の経過およびドラフトの構造について、原案を作成した報告者より概略が説明された。

契丹小字の最初の提案は2010年4月19-23日に米国アドビ社で開催された ISO/IEC JTC 1/SC 2/WG2 第 56 回会議である。この会議では、先行していた西夏文字・女真文字の議論が長引いたため、契丹小字の提案は議論することができなかった。2010年10月4-8日に韓国釜山で開催された WG2 第 57 回会議で正式に取り上げられ、契丹小字を独立した文字としてブロックを割り当て、符号化することが合意された。この符号案は、清格爾泰、呉英喆、吉如何らの先行研究を参考に、筆画を指標とする排列で作成した。符号案の属性欄には「契丹語言和文字」(Daniel Kane, 2009)にまとめられた発音または意味を記入した。契丹小字の資料は、原字を音節単位で組み合わせた複合字で書かれている。報告者は現在 Word を対象として複合字を入力するインプットメソッドおよび出力方式を開発している。

女真文字の標準化提案は2009年の第 54 回 WG2 会議(2009年4月20-24日)に中国から提案された。第 55 回 WG2 会議(2009年10月26-30日、東京)ではイギリスの専門家からコメントが出され、これを反映させるために異体字が追加された。第 56 回 WG2 会議でこのコメントに対する改定案が議論された。第 57 回 WG2 会議では契丹文字の符号化の議論に時間を費やしたため、女真文字の符号化に関する議論はされていない。現状の提案は、「女真文辞典」(金啓≡(「子宗」ソウ), 1984)が示す文字一覧をもとに、女真文字 1376 字と、部首字を追加している。排列は女真文辞典の部首・画数排列に倣った。

報告後、符号化提案の背景と原案作成のプロセスに関し、広島大学の鈴木俊哉から、既存の文字表との互換性について質問したところ、対応づけに疑問があるものは別字とし試案の段階で互換性を損なわないようにしているとの回答を得た。